

日本基督教団

伝道推進室

今こそ、福音伝道の前進のために!

suisinsitsu

contents

2~4/教会中高生・青年大会2014報告 5/主にある命を喜ぶ集い報告、全国信徒会発足に向けて 6~7/伝道キャラバン(三重)報告 8/お知らせ

「夢を見ている人のように なった日」

詩編 第126編

東京聖書学校吉川教会牧師 深谷 春男

第38教団総会期/常議員

詩編 126 編の作者は紀元前 538 年、ペルシャ王キュロスの解放令によって、遠くバビロンから帰ってきた信仰者のようです。彼は民族の復興を願い、信仰に燃えて帰国しました。しかし、彼を待っていたのは、過酷な現実でした。すでに異民族がそこに住んでおり、ソロモンの神殿は見る影もない瓦礫の山。更に、飢饉や病気。人々は疲れはて、すべてが滞っていました。そのような失意の時代に詩編 126 編は歌われました。

過去の恵み

「主がシオンの囚われ人を連れ帰ると聞いて わたしたちは夢を見ている人のようになった」 (1節)

山積する問題を前に、詩人はまず、自分の救いの原 点から歌い始めます。解放勅令の知らせを聞いて、「夢 を見ている人のようになった」あの喜びの時! バビ ロンからの解放の日! 自分の罪と恥のゆえに奴隷 となって失望した日々。異国の民の間にさまよった屈 辱の歳月。しかし、恵みの主なる神は、奴隷の縄目か ら彼を解放して下さった!

わたしも主イエスを信じて洗礼を受けた 19 歳のあの日を忘れることができません。涙が流れて止まらず、教会から帰る練馬の道を、夢を見ている人のよう



Mikotoba

にふらふらと帰り、献身 決意の祈りをしたあの 日! あの贖いの日が全 ての原点です。

現在の祈り

「主よ、ネゲブの川に流

れを導くように わたしたちの囚われ人を連れ帰っ てください」(4節)

詩人は、失望の現実の最中で、祈っています。「ネゲブの川に水を満たし給え」と。「乾季には水のないあの川も、雨季には滔々と流れる大河になります。主よ、人々をこの約束の地に連れ帰り、滔々と流れる大河のようにしてください!」。ここには霊的な復興、リバイバルを願う熱き祈りがあります。現在、インドで、中国で、韓国で、アフリカで、南米で、信仰復興の火が燃えています。日本の地にも、主よ、福音の季節を来たらせてください!

将来の希望

「涙を持って種まく者は

喜びの声をもって刈り取る」(5節)

詩人はさらに、将来への希望と幻を語ります。未来 を切り開くのは厳しい。それは労苦と涙を要する。で も、主にある労苦は無駄にはならない。やがて、大き な収穫の時がやって来る。

今日、日本基督教団は「伝道に熱くなる教団、教会」から「伝道に燃える教団、教会」を目指しています。 この詩人と同じように、過去の恵み、現在の祈り、将来への希望に燃えて、日本中に、主の福音の種を蒔き、主の教会を建てあげましょう。



日本基督教団

教会中高生・青年大会 2014

2014年8月19日~21日 東山荘 (御殿場)

立ち上がり 歩き始めたわたしたち

「教会中高生・青年大会 2014」実行委員会 委員長 **増田 将平** 8月19日から21日にかけて御殿場の東山荘で開催された「日本基督教団教会中高生・青年大会2014」に370名の参加者が集まりました。「イエス・キリストの名によって立ち上がり歩きなさい」の主題の通り、日本各地の若者たちがこの三日間でイエス・キリストと教会の仲間たちと出会い、立ち上がる様子を目の当たりにすることができました。

中学生

心を開かれて

中学生担当/西宮一麦教会牧師橋本いずみ

講演の始めに塩谷直也先生(中学担当の講師)は、「本当に大切なことは、心に残るものだ」と言われました。

中学生の講演では、ホワイトボードに描かれる絵と人形を使った話を聴き、講師の言葉に導かれて、目を開き、口を開き、心を開いていきました。朝の礼拝や分団で輪になり顔を上げて、目を開いてみると、主の名によって立ち上がろうとしている中学生たちがいました。

笑顔で握手をしながら去って行った中学生の心には、主からのメッセージが確かに残ったように見えました。



- ◆……・大和キリスト教会 上田百合子 私は塩谷先生に講演をしていただきました。心に残ったのは10回の「ごめんなさい」より、1回の「ありがとう」という言葉です。とても充実して楽しい三日間でした。
- ◆ 読谷教会 神谷 周 大会に参加して、ぼくは沖縄で出来ないことをたくさんしました。 寒沢の源流の水を飲んで、とても楽しい 三日間でした。

主題 イエス・キリストの名によって 立ち上がり歩きなさい 青年

《使徒言行録》第3章6節》

青年▶芳賀 力氏《東京神学大学学長》 市高校生▶深井智朗氏《金城学院大学教授》

中学生 塩谷 直也 氏《青山学院大学教授》

若者たちだけでありません。大会の運営に携わった80名 近いスタッフも共に神に仕える喜びと励ましを与えられま した。

この会のために多くの祈りと献金がささげられたことに 感謝を申し上げます。一人でも多くの青年が参加できるよ うに 1 万円を超える交通費を会計から補助することを決め ていましたが、準備段階で見通しが立っていたわけではあ りません。しかし全ての参加者の交通費補助と被災地から の参加者の参加費を全学補助することができました。まだ 大会の献金は受け付けております。どうぞよろしくお願い します。

御殿場から各地の教会に帰った若者たちが、主から与えられた使命を見出して歩み続けますように、教団の青年伝道がさらに前進しますように祈ります。

高校生

新しい自分に出会う

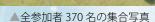
高校生担当/狛江教会牧師 岩田 昌路

今回の大会に集った高校生たちは、海外からの参 加者も含めて 48 名でした。深井智朗先生(金城学 院大学)が、講演 I 「自由と奉仕」、講演 II 「後世へ の最大遺物」をご担当くださいました。どちらの講 演も熱意に満ち溢れ、数々のエピソードを含めた メッセージは高校生たちの心に響き、印象深く残る ものとなりました。特に「解放としての自由ではな く、与えられた自由をどのように使うのか?」とい う問いかけと「与えられた人生を、隣人のため、キ リストのために献げてほしい」というメッセージは、 この年代の若者たちに最も相応しいものであったと 思います。分団の時間は6つにわかれ、出会いと交 わりを楽しみ、講演の内容を分かち合いました。深 井智朗先生が願われたように、高校生たちにとって 新しい自分、新しい人生を発見する三日間とされた ことを、神様に心から感謝しています。





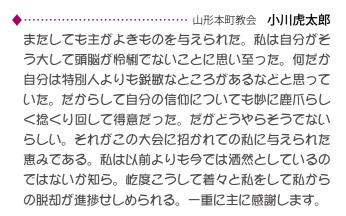
青年大会 2014



キリストの名のために

青年担当/洛北教会牧師 北川 善也

青年への講演は、「イエス・キリストの名のために」 と題して東京神学大学学長の芳賀力先生が担当して くださいました。現代の若者たちが直面している困 難な課題に対して、世の中は一時的な解決法を様々 に提示しますが、どれも根本的な解決をもたらすも のではありません。芳賀先生の講演は、そうした人 間を根底から支え導く力の源がどこにあるかを明確 に示すものでした。青年たちは約 10 名ずつ 15 の分 団に分かれ、講演の感想や信仰の証しを分かち合う 貴重な時も与えられました。



······松戸教会 **上栗 愛花** お互いを受け入れること。簡単なようで難しいことが この大会ではいろいろなところで行われていたように 感じます。礼拝や講演、分団を通して感じたことを語 り合う空間は、とても心地よく、祝福された時でした。 この全国大会は、神様を信じる人が神様のもとでひと つになるための大きな一歩であったと感じました。

短い二泊三日のなか、多くの信仰と出会うことができ た。全国で伝道に励む兄弟姉妹を目の当たりにし、彼 らを祈り続けたいと思う。多くの若い人たちが信仰を 分かち合い共に礼拝すること、それは肌で感じた参加 者のみが理解できる喜びだと思う。一同に集い、祈り、 讃美し、礼拝する。当然のようでありがたい。



主の御名を讃美いたします。日本基督教団主催の教会 中高生・青年大会 2014 に、青年の部として参加さ せていただきました。そこでの計2回の講演を通して、 いつ・どんな時でも、神様からの召命にお応えするこ とができるように心の準備し、神様を信じる心を持つ ておくことが必要ということを学ぶことができまし 怎。

祈 日本には明るさと熱意に溢れるクリスチャンの若者が こんなにたくさんいるんだと実感しました。美しい自 然に包まれ、素直な心で皆と語り合えた、貴重な三日 間でした。300人近い人々と心を一つにして祈った、 毎日の礼拝の時間は、きっとずっと忘れません。神様 からの人生へのエールです!!

······福島伊達教会 **菅野 仁美** 主の御名を賛美します。私は今年の 3 月に受洗し、 そのまま社会人になりました。仕事で礼拝を守れな かったり、聖書も読めなくなっていた時に大会に参加 しました。私は、こんな小さな私だからこそ神様は愛 し、道をはずれた私をもう一度呼びもどしてくださっ ているのだと気づきました。神様、たくさんの恵みを ありがとうございました!

. 20



2014年3月31日(月)~4月2日(水) 石和名湯館 糸柳 (山梨県)

讃美奉仕 森 祐理 姉 (福音歌手、ニューライフキリスト教会員) 講 師 小島誠志 牧師 講演 I「老いてから生まれる」

石橋秀雄 牧師 講演『「笑って、笑って、伝道を楽しむ」

参加対象 65 歳以上の教会員、求道者

主題 -

これからの人生を喜び楽しむ一主にあって、ゆったりと一

『第1回 主にある命を喜ぶつどい』を実施してみて

現地協力委員/日下部教会牧師 宍戸 俊介

すでに「教団新報」の4799号で既報のとおりですが、 去る3月31日から4月2日にかけて、「第1回主に ある命を喜ぶつどい」が実施されました。全体で51 名の信徒・教職+4名の参加がありました。

全体をゆったりと過ごすことを願って、二泊三日の プログラムと致しました。

全体の流れについては「教団新報」の記事をご覧いただきたいと思います。インターネットに繋がる方は、以下のアドレスで電子版の記事をご覧いただけます。(http://uccj.org/newaccount/19710.html)

12 月につどいの案内状をつくり 2 月いっぱいの募集としたのですが、当初は参加申し込みが少なく、つどいの実施に不安をおぼえた時期もありました。しか

し、結果的には人間の思いをはるかに越える神様のお 導きによってまことに豊かな時となりました。

この企画を実施して感じました。ご高齢の方にとって長距離の移動は負担が大きいため、今後は大人数を一か所に集めようとするのではなく、40人から50人規模で、しかし全国各地で企画を実施するのが良いように思います。

また、ゆったり過ごすために二泊三日はとても良い 長さでした。これは短くしない方が良いでしょう。も ちろん二泊すると費用が掛かります(今回は全参加 25,000円)。この点は今後の課題と思いました。

ぜひ今後も、こうしたつどいが全国津々浦々で開催されますようにと願っております。



プロテスタント日本伝道 155年

全国信徒会発足に向けて

1

第38教団総会期/常議員・目白教会員 鈴木 功男

「全国信徒会再結成」発起人募集中!

長い間、多くの兄弟姉妹の祈りの中にあった「全国信徒会」は、この度ようやく再結成への準備が 整い、発起人会を開催することになった。

全国信徒会は、1941 年日本基督教団成立の年に 組織され、戦後 1947 年に再組織。その後各地で 活動が展開されたが、教団紛争により実体を失っ た。

東京信徒会は教団紛争・東京教区紛争を乗り越え、2002 年に再発足した。2009 年プロテスタント日本伝道 150 年信徒大会は、全国信徒会再結成への願いを抱きつつ全国から結集した 954 名の感謝と讃美が 1,000 人会堂東京山手教会に轟きわたり、全国信徒会の息吹を確認し合った。

一方、2006 年第 35 回教団総会を第 1 回として、 総会二日目の夜に「信徒交流の集い」を開催、今年、 第 39 回総会は 5 回目になる。70 年前の発足もそうであったように、教団総会において行われることが相応しく、再結成発起人会は、このときを置いては他にないと、主の導きの内にある。

全国信徒会の目的は、規約案第3条に掲げた。

「日本基督教団全信徒の『主にある一致』『賜物の 分け合い』『会員相互の交わり』を通して、日本基 督教団の福音伝道推進に寄与する。」

先輩たちの抱いた全国信徒会の願いを受け継ぎ ながら、全体教会に仕える全国信徒会としての姿 を表したもので、いま新たな召しに与ろうとして いる。

趣旨に賛同される方は、どうぞ、発起人に名を 連ねてください。詳しくは、東京信徒会まで。

E メール: isaosuzuki2012@krd.biglobe.ne.jp

Zenkoku Shintokai

2

. 10

20

名張教会 松坂教会 大台めぐみ教会 尾鷲教会

伝道キャラバン報告

鈴鹿教会

MIE

上野教会

9.13(土) 各神学校より出発。津市にて宿泊。

四日市教会

幸町教会

山田教会

鳥羽教会

津教会

津示路教会

鵜方教会

紀伊長島教会

阿漕教会

- .14(H) 各教会における主日礼拝·昼食·午後の交わり等。 阿漕教会に集合し、三重地区壮年部集会(伝道推進室と共催)。
- .15(月) 名古屋に出発。金城教会にて、発足記念名古屋大会奉仕。

「伝道の熱き思いを語りあえた喜び」

このたび、石橋議長をはじめ、伝道キャラバンとし て牧師および神学生、総勢 22 名の方々が、遠方から 三重地区諸教会の主日礼拝奉仕と全体集会のためにお 越しくださいました。また、三重地区として伝道キャ ラバンを受け入れ、地区内諸教会に対し主日礼拝の奉 仕希望アンケートをとったところ、15 教会の希望が あり、これを実施できたことは感謝でした。

三重地区は、南北に広い地域です。特に南部の高齢 化・過疎化問題が深刻となっており、教会の体力も落 ちてゆく傾向にあります。それらの教会から「伝道キャ ラバンで派遣された牧師・神学生の礼拝説教や証を通 して元気をもらった」という声を聞くことができまし た。また、主日礼拝の後、午後3時から津市にある阿 漕教会に集まり、全体集会を行いました。石橋議長の 発題、伝道キャラバンによる賛美、三重地区の若い教 師によるバンド演奏、分団協議と、どれもが伝道の熱 き思いに満たされました。三重地区では、今までにも 3回にわたって伝道について考える集会を重ね、今回

は4回目、特別集会となりました。それぞれの教会がいろいろな課題を抱える中で、 一人でも多くの人に福音が伝わり、教会につながることを願っています。 そのためにも、 1 教会だけで悩み、取り組むのではなく、地域信仰共同体として、共に教会同士が課 題を共有し合い、支え合うことが必要となっています。

今回、この伝道の課題を伝道キャラバンの皆様と共有できました。また、それ以上に、共に共通 した伝道の思いを確認し合い、主イエスが与えてくださった福音を共鳴し合えたことが何よりも大 きな収穫でありました。

・伝道推進室発足記念名古屋大会を終えて。

阿漕教会牧師 加藤 幹夫

主日礼拝に訪問した教会、説教者、キャラバンメンバ

| 9 | 月 14 日、土日礼井 | に即向 | しに叙え | 文、 説 | 叙 百、 | ナヤフ / | ハノメノハ | |
|---|-------------|-----|------|------|-------------|---------------|----------------|----|
| | | | | | | | (敬称略 | ₹) |
| | 阿漕教会 | 説教 | 岩田 | 昌路 | (狛江教 | 收会) | | |
| | | | 阪根 | 啓子 | (神学生 | 生/東京社 | 申学大学) | |
| | 尾鷲教会 | 説教 | 野々川 | 藍 | (神学生 | 生/東京聖 | 智書学校) | |
| | 幸町教会 | 説教 | 瀧山喜 | 与実 | (神学生 | 生/東京神 | 申学大学) | |
| | 鈴鹿教会 | 説教 | 吉川 | 進 | (神学生 | 生/東京神 | 申学大学) | |
| | 津教会 | 説教 | 山北 | 宣久 | (前青) | 山学院院县 | ₹) | |
| | 松阪教会 | 説教 | 山畑 | 謙 | (小金) | ‡緑町教会 | () | |
| | | | 宮本 | 裕子 | (神学生 | 生/東京神 | 申学大学) | |
| | 山田教会 | 説教 | 安藤 | 果菜 | (神学生 | 生/東京神 | 申学大学) | |
| | 四日市教会 | 説教 | 北 | 紀吉 | (愛宕町 | 订教会) | | |
| | | | 平向 | 倫明 | (神学生 | 生/東京神 | 申学大学) | |
| | 上野教会 | 説教 | 宮本 | 義弘 | (沼津教 | 收会) | | |
| | 鵜方教会 | 説教 | 横山 | 基生 | (神学教 | 牧師/東京 | 京聖書学校) |) |
| | | | 齋藤 | 文博 | (神学生 | 上/東京 暨 | 智書学校) | |
| | 大台めぐみ教会 | 説教 | 今村あ | づさ | (神学生 | 生/東京神 | 申学大学) | |
| | | | 上田充 | 香子 | (神学生 | 生/東京神 | 申学大学) | |
| | | | 北浦 | 圭祐 | (神学生 | 生/東京神 | 申学大学) | |
| | 紀伊長島教会 | 説教 | 阿部 | 晋也 | (神学生 | 上/東京 暨 | 智書学校) | |
| | 津示路教会 | 説教 | 成田い | うし | (磐上教 | (会) | | |
| | 鳥羽教会 | 説教 | 石橋 | 秀雄 | (越谷教 | 数会) | | |
| | 名張教会 | 説教 | 清藤 | 淳 | (和歌) | 山教会) | | |
| | | | | | | | | |

有田いづみ(神学生/東京神学大学)

●阿漕教会にて

▼伝道への熱い思いを語り合った 重地区壮年部集会、記念撮影



6

鳥羽教会

xxxxxxxx

笑いの礼拝



鳥羽教会会員 舟橋 三雄

この度、三重伝道キャラバンとして、教団議長の石橋秀雄牧師が、鳥羽教会で礼拝の御奉仕をして頂けるということで、この礼拝は教会に与えられた伝道の絶好の機会と受け取り「特別伝道礼拝」として、市内及び隣接の志摩市全域に案内状を新聞のチラシで配布し、一人でも多くの方にと祈りました。

そして 14 日の礼拝には、通常の 3 倍もの出席者があり、久し振りに賑わった礼拝となりました。聖書の使徒言行録 18 章 10 節の御言葉を思い出しました。「この町には、わたしの民が大勢いる」。私達はこの御言葉を深く噛み締め、今後、鳥羽の伝道を真剣に見直さなければと思った事でした。

説教中、石橋牧師は坂本九ちゃんの「幸せなら手を叩こう」の歌を自ら手を鳴らし歌われ、会衆もそれに合わせて歌い、さらには狂言師野村萬斎の「笑い」を実演され、会衆にも立たせてそれを3度真似させられ、礼拝堂は笑いが満ち溢れました。大変楽しい、笑いの籠った礼拝を捧げることが出来ました事、感謝です。

尾鷲教会

xxxxxxxx

恵みと慈しみは いつもわたしを追う。

尾鷲教会牧師 鈴木 恵子

この度、伝道キャラバン隊をお迎えした!

尾鷲教会は三重地区の最南端に位置し、三方山に囲まれリアス式海岸に面した風光明媚な所である。創立以来68年間、一種教会として祝福されてきた。しかし、高齢化の波をもろに受けて、次年度より二種教会に種別変更をせざるを得なくなった。教会を存続させる為の苦渋の選択だった。

教会の雰囲気が沈む折、まさに、天からの風が吹き込む様に、伝道の熱に燃えるキャラバン隊を迎えられた。東京聖書学校より野々川藍神学生によって詩編23編から、主の恵みと慈しみが生き生きと確信に満ちて語られた。私たち小さな群れの教会でも、決して、見捨てられてはいない。主を信じる家族たちに祈り支えられていることを実感することができた。特伝の講師をお迎えする財政的困難さにある地方教会にとって、慈雨のような働きであった。感謝である。

伝道の喜びを<mark>経験する旅</mark> 伝道半ャラバンに参加して

東京聖書学校 4 年 阿部 晋也

主の御名を賛美致します。

この度、伝道推進室主催の三重キャラバンに参加 させて頂きました事を感謝致します。

このキャラバンは大変素晴らしい学びの時となりました。主日においてキャラバン隊の教職、学生が、お招き頂きました三重県の 15 教会で説教や証の奉仕の時を賜わりました。私は紀伊長島教会にて説教の奉仕をさせて頂きましたが、その場において、地方教会の現状と今後の課題について多くの学びを得ることが出来ました。

私が特に思わされたのは、信仰継承の重要性とその地域において教会存在をアピールする事でした。その中でもお一人の信徒の方の言葉が非常に印象的に残りました。それは、「この教会に来て私は本当に元気になった。ここに教会があって良かった」という言葉です。教会は人々が心安らかに安心出来る場所でなくてはならない。その為に重要な事はやはり、真実に神様と向き合い、全ての方々の平安を祈らねばならないと改めて思わされました。

三重地区 壮年部集会

伝道推進室とのコラボ

伝道の熱き思いを語ろう part4

津示路教会牧師 下村 徹嗣

9月14日(日)午後3時、三重地区16教会の教師、信徒は阿漕教会に集結し、キャラバン隊全員と合流。総勢80数名で集会を持ちました。地区では過去3回、伝道について語り、霊的に高め合う会をもってきましたが、このような形は初めてでした。

石橋議長のお話のあと、8 分団に分かれ、地方教会の実情を知っていただき、親しく交流する場が与えられました。教団が力を入れて伝道に取り組んでいる実際、全国に伝道に真剣に取り組む仲間がいることなどを知らされ、日ごろ孤立しがちな私どもは大いに励まされ、刺激を受けました。

最後にキャラバン一人ひとりの挨拶をお聞きするなかで感じたこと。それは主にあって、私たちは一つであるということ。それぞれの遣わされた所でその所にふさわしい伝道をし続ければよい。そこに明日への希望が生まれると思った次第です。

よきコンサートのあとは余韻が残ると言いますが、今回の伝道コラボは美しいハーモニーを響かせてくれました。

7

伝道推進室報 №4 2014・10・20

クリスマストラクトも完成! 伝道トラクトをご利用下さい



死よりも確かなものはないのか

・近藤勝彦牧師

伝道推進室では、**姜尚中氏と近藤勝彦牧師**にお願いして作成しました**伝道用トラクト(ご自身の体験を基にした尊いキリストへの導きの言葉がつづられています**)に引き続き、クリスマスメッセージを記した**クリスマス用トラクト(メッセージ:網中彰子牧師**)を作成しました。素敵なデザインとあいまって、人々の心を引きつけることと思いますので、是非ご利用下さい。

尚、1,000 枚以上で注文いただければ、教会名等必要事項を入れて印刷(1枚につき2円増) いたしますので、お申しつけ下さい。トラクトは1枚10円です。姜氏、近藤牧師を説教者・ 講師としてお招きの折には、大いに役立ちますので、お用いいただければ幸いです。

皆様の御教会の伝道の働きに、神の豊かな祝福を祈ります。

問い合わせ・お申し込みは ▶ 伝道推進室(TeLO3-3202-0544)



仕上がりサイズ 190mm×105mm (二つ折り)

伝道応援報告

◆派遣教会 日時 講師

《2014年6月~9月》

伝道推進室は、教団内諸教会に対する伝 道応援として、伝道礼拝・伝道集会等へ の講師派遣を開始しました。

◆中部教区 上 野 教 会 6月15日 小林克哉(伝道委員長・呉平安教会)

◆東北教区 磐 城 教 会 6月15日 岩田昌路(伝道推進室書記・狛江教会)

◆東海教区 軽井沢教会 6月15日 北 紀吉(伝道推進室委員・愛宕町教会)

◆大阪教区 長 居 教 会 7月20日 北 紀吉(伝道推進室委員・愛宕町教会)

◆九州教区 都城城南教会 7月20日 小島誠志(元教団総会議長・久万教会)

◆中部教区 尾 鷲 教 会 9月21日 石橋秀雄(伝道推進室長・越谷教会)

◆東北教区 安 積 教 会 9月21日 小島誠志 (元教団総会議長・久万教会)

クリスマス献金の お願い

伝道推進室の働きのすべては皆様 の尊い献金によります。お献げくだ さる皆様のご献金によって、伝道キャ ラバンや教会応援伝道などの働きも 実現できています。

これらの働きも含めて、日本全国 に福音を携えて行く働きを、祈りと 献金を通してお支えくださいますよ うにお願いいたします。

《郵便振替口座》00150-4-338628 日本基督教団伝道推進室



《伝道推進室基本方針》

日本基督教団は、聖なる公同の教会に連なる福音主義合同教会である。本教団は、 簡易信条と公会主義の伝統を継承しつつ、十字架と復活の主のご委託に応えて、日 本伝道の幻に仕える。伝道推進室は、伝道委員会のもとに設置された機関であり、『日 本基督教団信仰告白』と『日本基督教団教憲教規』に基づく信仰の一致をもって、 さらには将来の『伝道局』構想を視野に入れつつ、教団全体における伝道の実践と 研究に取り組み、教団内諸教会、諸団体における伝道の推進に仕えるために活動する。

●発行者/石橋秀雄 ●発行日/2014年10月20日

伝道推進室報 No.4

●発行所/日本基督教団 伝道推進室

《日本基督教団事務局内》 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31 一時移転先 〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18 〈郵便振替 **00150-4-338628**〉 TEL 03-**3202-0541** FAX 03-**3207-3918** URL **http://uccj.org**

編集後記

20 数年前のことですが、知り合いの宣教師に会いにモスクワを訪問した時、北極に近いシベリアの町々を巡りながら伝道してきた人々をモスクワ駅で迎えたことがあります。一ヵ月ほどの伝道から帰って来たのはアメリカ在住の男女 30 人程の大学生たちでした。夏休みを利用してのことだったそうです。福音の種を蒔くために自分の大切なものを捧げている人々の姿を、20 年が過ぎた今、日本において見ることができ大変嬉しく思っております。 (広報実務委員会)